



〒108-0071

港区白金台
3-7-1



(3443) 5666

<http://shirokanedai-kg.minato-tky.ed.jp/>



サマープレデー



やる気スイッチ ON!

園長 新井 智子

記録的な猛暑の8月でした。3年ぶりに感染症対策の行動制限がなくなったものの積極的に屋外で過ごすには厳しい夏になりました。今年は、花火を購入する家庭が昨年に比べて増加したり、キャンプ場が賑わったりしたそうです。コロナ禍や猛暑であっても、夏を味わえるようご家庭ごとに工夫されたことと思います。

夏季休業中、ある研修会に参加し「意欲と脳の働き」についてのお話を伺いました。子どもたちが遊びに対して、意欲やモチベーションがもてないときに、脳を刺激する手立てを講じて、「やる気」を起こさせるお話です。

やる気を起こすということは、脳の淡蒼球(たんそうきゅう)という部位を起動させて意欲のパワーを出していくこと。そして、その淡蒼球を起動させるには、脳の4つのいずれかの部位のスイッチを次の方法で ON にするということでした。

- 1 いつもと違うことをする(海馬)・海馬は指令を出す部位だと言われています。重要なことが起きたとき対応するのでいつも通りだと力が発揮されません。海馬のためにはいつもと違う要素を取り入れるのが効果的です。遊びを変化させアレンジするのも一つの方法です。
- 2 なりきる(前頭葉)・強く念じたり思い込んだりすることで、前頭葉が活動して無意識のうちに体が動き、目標を叶えようとします。いいイメージをもたせたりきることでもやる気が引き出されます。
- 3 ごほうびをあたえる(テグメンタ)・ものをあげることもごほうびではありませんが、行動をほめたり、達成感をもたせたりすることもごほうびになります。ごほうびの喜びがテグメンタという部位を刺激します。
- 4 身体を動かす(運動野)・体が脳の支配下にあるのではなく体が主導権を握っています。体の動きに脳がつけられるのだそうです。体を動かすことで心も弾んできます。「やる気が出たからやる」のではなく、脳の働きが「やるからやる気が出る」になってくるそうです。

子どもたちの「やる気スイッチ」を ON にして遊びが活性化し充実するよう、2学期も指導に邁進してまいります。

<9月の指導のねらい>

3歳児

- 園生活のリズムを取り戻しながら、自分のしたい遊びを見つけて繰り返し楽しむ。
- 教師や友達と一緒に伸び伸びと体を動かす心地よさを味わう。

4歳児

- 園生活に必要なことを思い出しながら、自分から様々な活動に取り組もうとする。
- 自分の思いや考えを出しながら遊び、友達と関わったり、思い切り体を動かしたりすることを楽しむ。
- 草花や木の実、虫などに関心を持ち、観察したり、遊びに使ったりすることを楽しむ。

5歳児

- 友達と思いや考えを出し合い、互いに受け止めながら遊びや活動を進めていく楽しさを味わう。
- いろいろな運動遊びに挑戦する中で、自分の力を発揮したり、友達と力を合わせたりする。
- 身近な自然の変化に気付き、草花や虫、栽培物などに興味をもって関わったり遊びに取り入れたりすることを楽しむ。



